

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年9月7日（木）

2 確認箇所

多核種除去設備等処理水希釈放出設備（移送配管ベント弁）

3 確認項目

多核種除去設備等処理水希釈放出設備（移送配管ベント弁）における漏えい警報発生状況

4 確認結果の概要

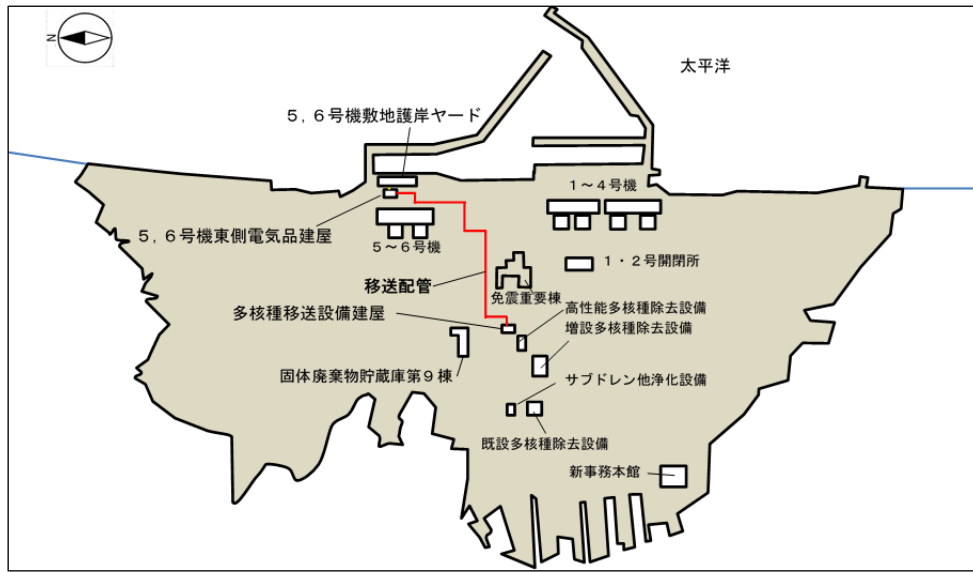
9月6日、多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）希釈放出設備の移送配管において、屋外ベント弁フランジ部の漏えい警報が発生した。この事象は当日の東京電力の調査により、ALPS処理水が漏えいしたものではないと判断されたが、本日は、この件について東京電力から聞き取り及び現場の状況を確認した。（図1）

(1) 東京電力による説明

- ・漏えい警報が発生した弁のカバー外観を確認した結果、防水処置の一部に亀裂があった。防水カバー内部を確認すると、湿潤状態であり、濡れた部分もあった。
- ・ALPS処理水は逆浸透膜装置で塩分を濃縮した水であるため（淡水化した水は炉注水に利用）、一般的に塩分濃度は高いが、弁カバー内部にあった水の塩分濃度を確認すると、0.00%であり、漏えい警報はALPS処理水の漏えいによるものではないと判断した。

(2) 現地確認の結果

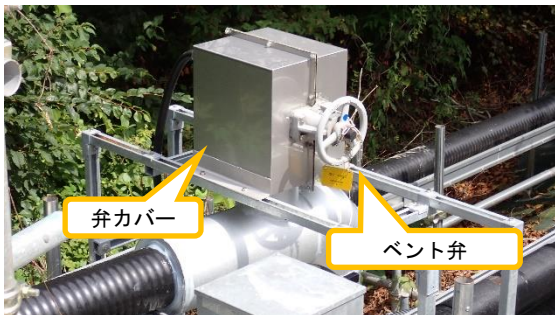
- ・現地では、東京電力と委託作業員合計10名程度が、漏えい検知器が反応した弁のカバーや保温材を外し、調査を行っていた。（写真1）
- ・他の弁カバーについても確認したところ、一部の弁カバー防水処置（コーキング）に亀裂やはがれがあるおそれがあるため、東京電力に情報提供した。（写真2）



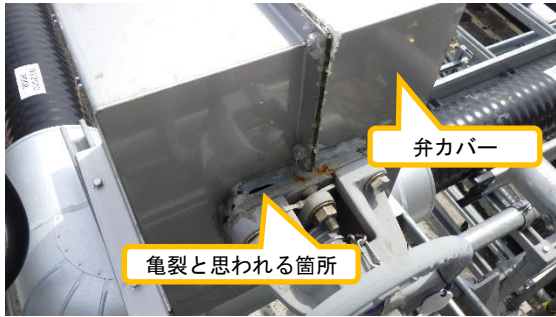
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
漏えい検知器が発報したベント弁調査の状況

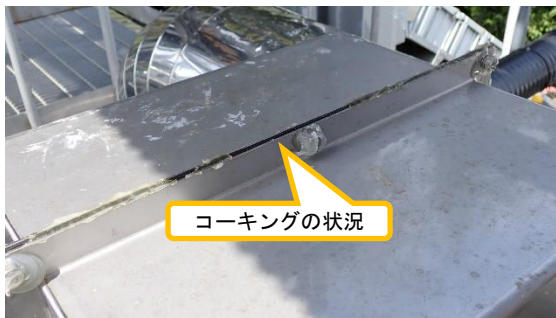


(写真2-1)
他のベント弁の状況
(今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー)



(写真 2-2)

弁カバー防水処置（コーキング）の状況①（今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー）



(写真 2-3)

弁カバー防水処置（コーキング）の状況②（今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。